

## 企画講座

### 伊勢国司北畠氏の歴史② 講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうというシリーズの第2回目。

今回は南伊勢町の古和浦に伝わる「北畠顕能・顕泰御教書」を読みながら、南北朝合一時の北畠氏と伊勢国について考えてみます。中世の古文書を読めるようになりたいと思ってる方、大歓迎!!

日時 6月7日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 中国茶を楽しむ 講師 須永 知佐 中国茶茶房「茶KURA」オーナー

いつも美味しく楽しい中国茶講座。  
続けて2回ほど先生のお店を訪ねましたが、今回は塾で2種類のお茶とお菓子をいただきます。  
一つは青茶のひとつ黄金桂茶。青茶は半発酵茶とされ、その発酵度は茶の種類によって20～80%と異なっています。  
黄金桂は比較的発酵度が低く製造されているため、水色は薄く、黄金色ようになります。また、かすかに桂花(キンモクセイ)の香りがし、黄金色の桂花の香りを持つお茶ということで、黄金桂と呼ばれています。もう一つは花茶のひとつ八宝茶。漢方でも用いられる数種類の素材を茶葉にブレンドした中国伝統のお茶です。「八宝」とは、「たくさんのいい素材」という意味で必ずしも素材の数ではありません。菊花やクコの実、サンザシなどなど見た目も鮮やかで、美しく楽しいお茶です。氷砂糖も入っているので少し甘めのお茶になります。そして須永先生お手製のお菓子も楽しみの一つ。作り方も教えてもらいます。

日時 6月9日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 1,900円 ビジター 2,400円(お茶・お菓子代含む)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

### はじめての花結び～結びでつくるひまわり～ 講師 川本 美香子 日本結び文化学会会員

「花結び」は一本の紐を手で結び、花や蝶、紋などの形をつくる飾り結びです。「結ぶ」という行為には、長い歴史と伝統に培われた美しさが存在しています。古代人は、その結び目に神の御心が宿ると信じていました。仏教の伝来と共に花結びが伝えられると、花結びの文化は一気に花開きました。現在でも、信仰に関するもの、日本の伝統的なものなどには残っていますが、日常の暮らしからはほとんど消えてしまいました。そんな優美な結びを現代風にアレンジして楽しんでみましょう。今回はタッチングという技法(マクラメ)を使い、ひもを結んで「ひまわり」を作ります。明るく元氣いっぱい咲く「ひまわり」を結んで身につけてください。フローチにもペンダントトップにもチャームにもできます。先に種あかし?! をすると花びらと種は同じ結びです。結び方は一種類で繰り返し結びますので、初めての方でも気軽にご参加ください。(筆記用具・ハサミ・ピンセット・まち針(2本)を必ずお持ちください)

※材料準備の都合により、6/7に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。  
日時 6月14日(月) 13:30～15:30 参加費 会員 2,700円 ビジター 3,200円(材料費含む)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

### 観葉植物で楽しむハンギングバスケット 講師 山路 元彦 ヤマジ園芸代表取締役・グリーンアドバイザー

昨年末の「ハンギングバスケット」講座が大変好評で、ぜひまたとの声がありましたので、夏もハンギングバスケットの寄せ植えをすることにしました。ハンギングバスケットとは植物を植えて吊り下げたり、掛けたりできる花鉢のことで、ガーデンスペースが限られている場合などは空間を有効利用して楽しむことができます。しかし夏は花持ちが悪くなります。そこで今回の材料は観葉植物を使います。ポトス・ツディ・アスパラガス・アナナス・コリウスなどなど。(材料の内容は変更になる場合があります。)

花とはまた違った清々しくさわやかな寄せ植えを楽しみましょう。(園芸用手袋、エプロン、タオルなどをお持ちください)  
※材料準備の都合により、6/6に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。  
日時 6月16日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 4,400円 ビジター 4,900円(材料費含む)  
(ハンギングバスケット用の容器・スポンジをお持ちの方は参加費が800円、また容器のみお持ちの方は500円安くなります。)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

### 神宮摂社・末社・所管社の歴史 その6 堅田神社の歴史について 講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

堅田神社は延暦23年(804)に作られた『皇太神宮儀式帳』所載の24座の一つにあげられますが、『延喜式』にはこの名前では一切登載されていません。ところで、祈年祭、6月月次祭、神嘗祭、新嘗祭、12月月次祭の年間5回、権禰宜・宮掌・出仕の3人が神宮の摂社・末社・所管社を何日かに分けて輪番制で各社を参向する巡回祭典が行われます。なかでも二見方面は堅田巡回と称し、堅田神社を中心に江神社や神前神社等に神職が参向いたします。一般に延喜式に登載される神社を式内社と呼び、延喜式にみられる神宮のお社を摂社と位置づけています。しかし延喜式には「堅田神社」の名称がないのに、神宮は堅田神社を皇大神宮摂社に列しています。何故でしょうか。御塩殿との関連性を指摘する説もあり、果たして正しいでしょうか。また儀式帳には祭神名が記されておらず、鎌倉時代の『倭姫命世記』に記される伝承とも異なる箇所がみられます。この異説をどう考えたら良いでしょうか。今回はこれらの謎について紐解きます。

日時 6月22日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 仏様の見分け方 その2 ～明王と天部～ 講師 瀧川 和也 三重県総合博物館調査・資料情報課課長

冬の講座で仏様の見分け方をお話いただきましたが、如来と菩薩で時間切れとなってしまうしまいました。なんせ如来さまだけでも釈迦如来、阿弥陀如来、薬師如来、大日如来などと錚々たる顔ぶれ(?)が揃っていて、その違いを聞いて納得しているうちに終わってしまいました。今回は明王と天部が中心です。明王の代表は不動明王と愛を司る愛染明王、どちらも憤怒の形相ですがそれにはちゃんと訳があるのです。さてその訳とは? 天部は仏教成立以前のヒンズー教の神々です。梵天、帝釈天、金剛力士、毘沙門天、吉祥天、弁財天、大黒天、韋駄天、閻魔王など20以上もあり、姿かたちもそれぞれに違ってきます。この中で特に人気のあるのは弁才天と大黒天、弁才天は知恵や長寿、富を司るとされていますが、特に富の方が日本では取り上げられ弁財天となり、姿かたちは美女で福の神として多く祀られています。大黒天は日本神話の大国主と同一化され、もともと憤怒の形相だったのがふくよかな形で食物と財福の神となりました。天部は日本で最も大きく変化した仏様です。仏像はととても奥の深いものです。

日時 6月28日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 蕭白も見た朝田寺のじぞうさん 講師 榎本 義讓 光福山朝田寺住職

曾我蕭白は江戸時代中期の絵師です。水墨画の高い技術を持ち、強烈な画風で近年評価が高まっています。蕭白は伊勢国に2度滞在し、各地の寺などで寄宿しながら絵を残しています。残念ながらその多くは現存していませんが、唯一松阪の朝田寺には、国指定になっている唐獅子図、板戸に描かれた絵、市の文化財指定の唐人物図など10余りの絵が残っています。朝田寺は空海の作と伝わる国の重要文化財の地蔵菩薩が本尊で、平安時代から続く由緒あるお寺です。地蔵菩薩は釈尊が入滅してから弥勒菩薩が成仏するまでの無仏時代の衆生を救済することを、釈迦からゆだねられたとされる仏様で大きな慈悲で人々を救うそうです。榎本住職の穏やかな語り口で蕭白とお地蔵さんのお話を伺います。

日時 7月12日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 漢字の旅「雨・昼・坐・衣・来」～高先生に学ぶ漢字は面白い～ 講師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古い結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。今回、注目するのは「雨・昼・坐・衣・来」。「雨の後の美しい青い苔の色が私の衣までもが青く染まりそう…」夏の風物を美しく描かれた唐代王維の「書事」の詩を鑑賞しながら、詩中の文字「雨・昼・坐・衣・来」の由来とロマンを語ります。甲骨文字の書き方を手ほどきします。(ボールペンや筆ペンでも可能です)

日時 7月13日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名



### 夏の花を生けましょう 講師 竹澤 幸甫 嵯峨御流正教授

暑い最中ですが、せめて涼しげなお花を生けて目から涼をとりましょう。材料はパンパスとクルクマ、パンパスは南米大陸の原産、日本名はシロガネヨシといいます。薄のような形ですが狐の尻尾のようにふさふさした銀色の大きな穂がです。ドライフラワーにも向いているので、後々まで利用できるスグレモノです。クルクマは熱帯アジアやインドの原産、トーチのような形で百合のような花弁、白や赤、ピンク、ボカシなど多彩な色があります。高温多湿を好みますので水持ちの良い花です。今回は夏にふさわしい花材を楽しみます。(花包み、花切り鋏、タオルなどをお持ちください)  
※材料準備の都合により、7/13に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 7月21日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 3,000円 ビジター 3,500円(花材費含む)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名 ※仕入れ状況により花材が変更になる場合があります。

### 伊勢神宮の神宝「玉纏御太刀」について 講師 高松 雅文 三重県埋蔵文化財センター活用支援課主査

伊勢神宮では遷宮の度に合計60本の御太刀が調進されますが、このなかで最も華麗で重厚な装飾を施されているのが「玉纏御太刀」です。この太刀は、金銅の金具の他に300個の五色の玉を纏繞っていて、この玉を纏う姿から「玉纏」の名が付いたとされています。この「玉纏御太刀」をさかのぼっていくと、古墳時代の儀礼のための刀にたどり着くことが、近年の考古学上の発掘調査から分りつつあります。古墳時代の儀礼の刀がどのようにして伊勢神宮の神宝となったのかをやさしく解説いたします。

日時 8月3日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 日本書紀 その2 講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

日本書紀は全30巻にも及ぶ大歴史書です。天地開闢から持統天皇までを扱い漢文で記されています。古事記が文学的なものである一方、日本書紀は日本の正史として年代を追って書いています。したがってあまり面白みはないようです。しかし正史としての地位は高く、一時、古事記は偽書とまでいわれ、片隅に追いやられていたほどです。その真価をみだしたのには本居宣長でした。神話満載の古事記は戦後は皇国史観批判の嵐を浴びて冷遇されましたが、1990年代ころから再び脚光を浴びるようになりました。反対に日本書紀の方の地位は下落していききました。世の中の趨勢によって上がったりがったりこの2書は時代に翻弄されてきた歴史書といえましょう。前回に引き続き日本書紀についての興味あるお話です。

日時 8月25日(水) 18:30～20:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 夏の星見と惑星探査 講師 毛利 勝廣 名古屋科学館主任学芸員・学術博士

夏の星空には、夏の大三角やさそり座など見どころがたくさんあります。さらにこの夏は土星が加わってにぎやかです。木星や土星にはボイジャーやカッシーニなどの探査機が送り込まれて大活躍してきました。また昨年秋に最接近した火星では周回機や探査車が活躍しています。惑星探査の歴史と成果をお話します。  
日時 8月26日(木) 18:30～20:30 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円(お菓子付き)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

### 伊勢西国三十三所～もう一つのお伊勢参り～④ 講師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

文化庁の日本博事業の一環として選ばれた「伊勢西国三十三所観音巡礼」伊勢国の観音巡礼は、伊勢神宮周辺から多度大社周辺まで、街道沿いに点在する「観音さま」のお寺39ヶ寺を巡ります。4回目は伊勢やその周辺から難波、津を経て、鈴鹿、亀山の寺々を巡ります。そこには伊勢神宮の大観大御神の御響を受け、「神仏習合」を色濃く残すお寺や、織田信長の侵略を受けて焼失した後々人々の力により復興した古刹、徳川家からの篤い信仰など、さまざまな歴史があります。令和の今に残る観音さまを織りこみます。

日時 8月27日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 楽しい俳句

わずか17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らず5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

講師 石井 いさお(俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰)  
期日 6月23日(水)・7月28日(水)・8月25日(水) 時間 各回10:00～12:00 定員 20名  
参加費 各回 会員 1,550円 ビジター 2,050円